

沖縄赤十字病院

症例番号6

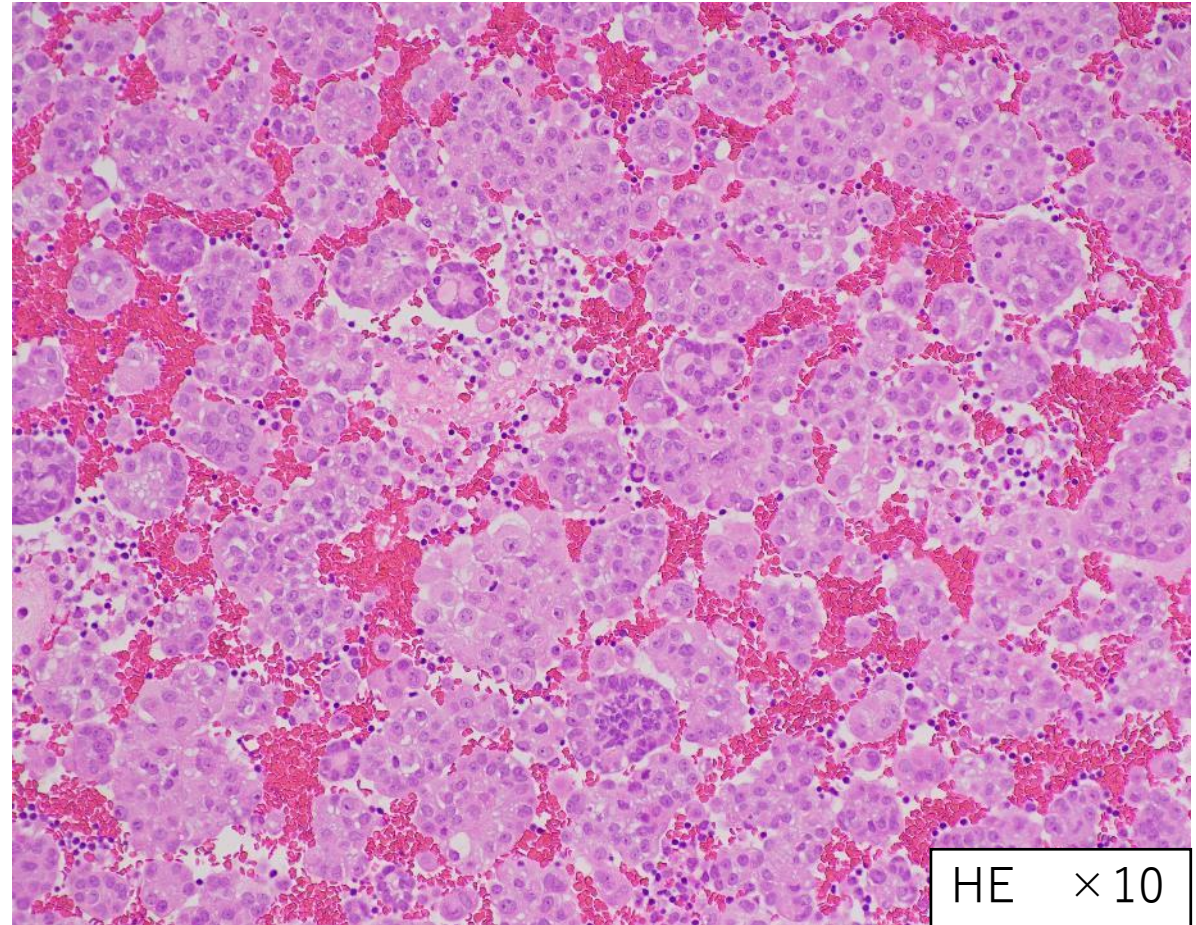
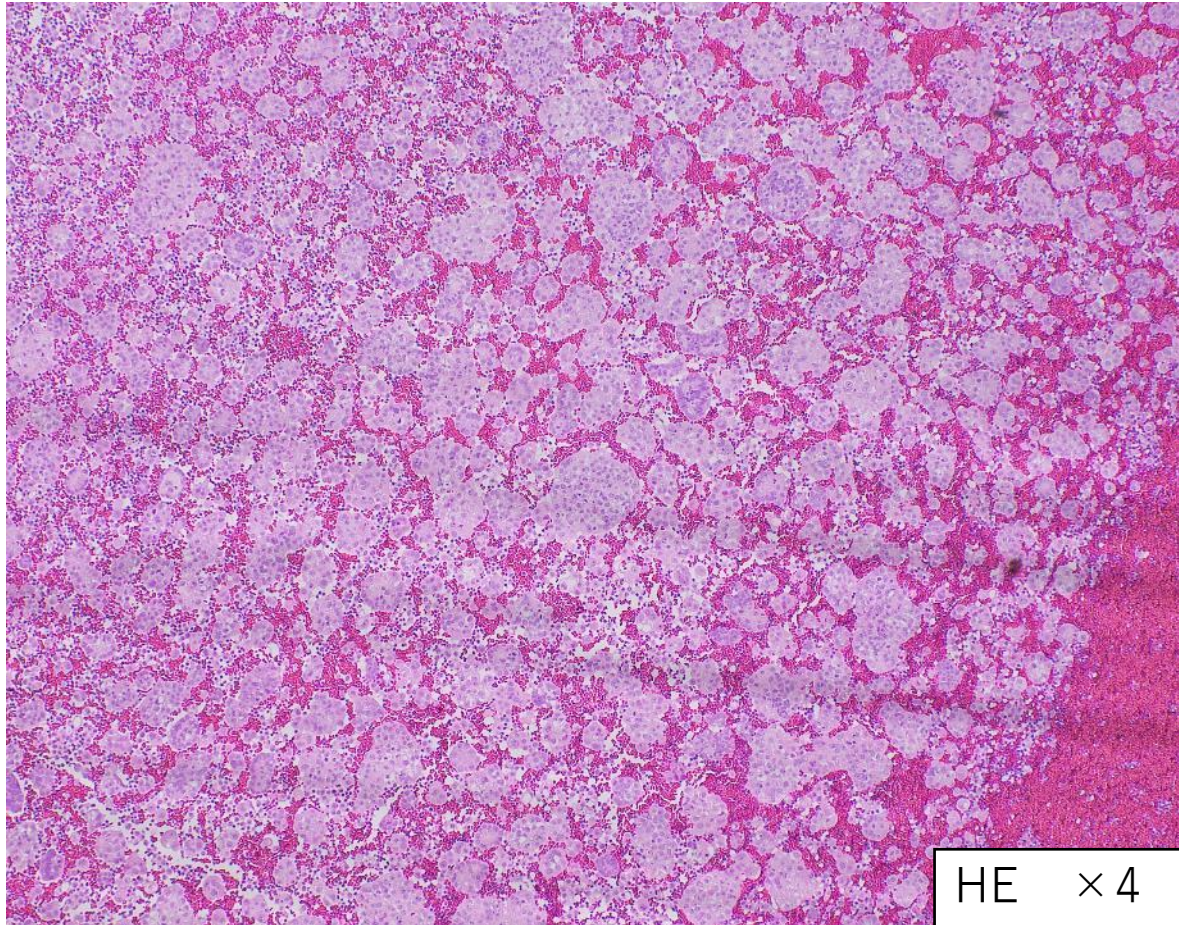
1、細胞診判定：**陽性 (Positive)**

リンパ球、赤血球を背景に大量の異型細胞集塊が出現している。異型細胞は乳頭状集塊やまわりも状集塊を形成しており、相互封入像や核分裂像を認める。二核や多核の細胞も多く見られ、悪性中皮腫が疑われる細胞像だが、やや核の大小不同が多く、密度が高い小型核の細胞集塊が混在していることやアルシアン青染色で中心に粘液様に染まる所見があることから、腺癌との鑑別を要する。

2、組織診断（左胸水セルブロック）：**Malignant mesothelioma**

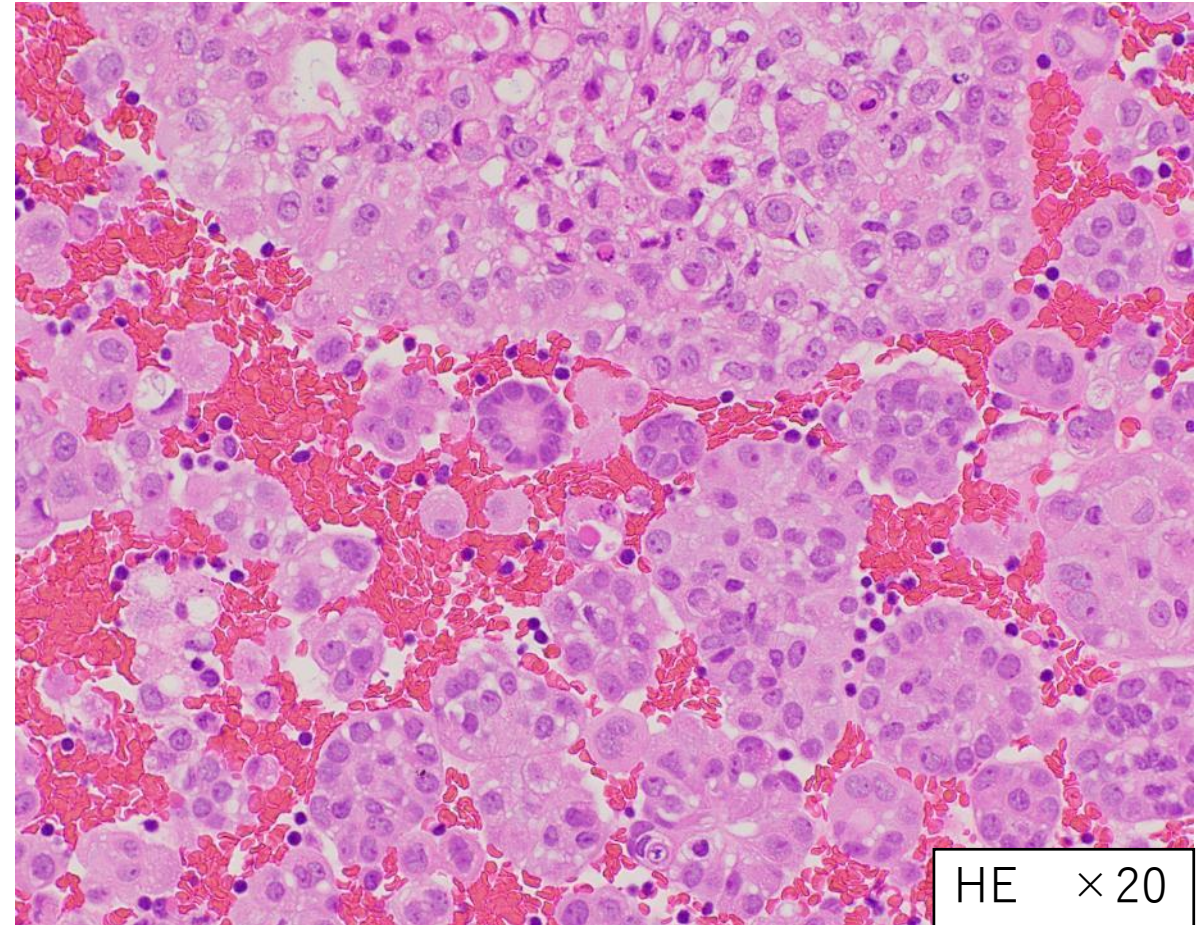
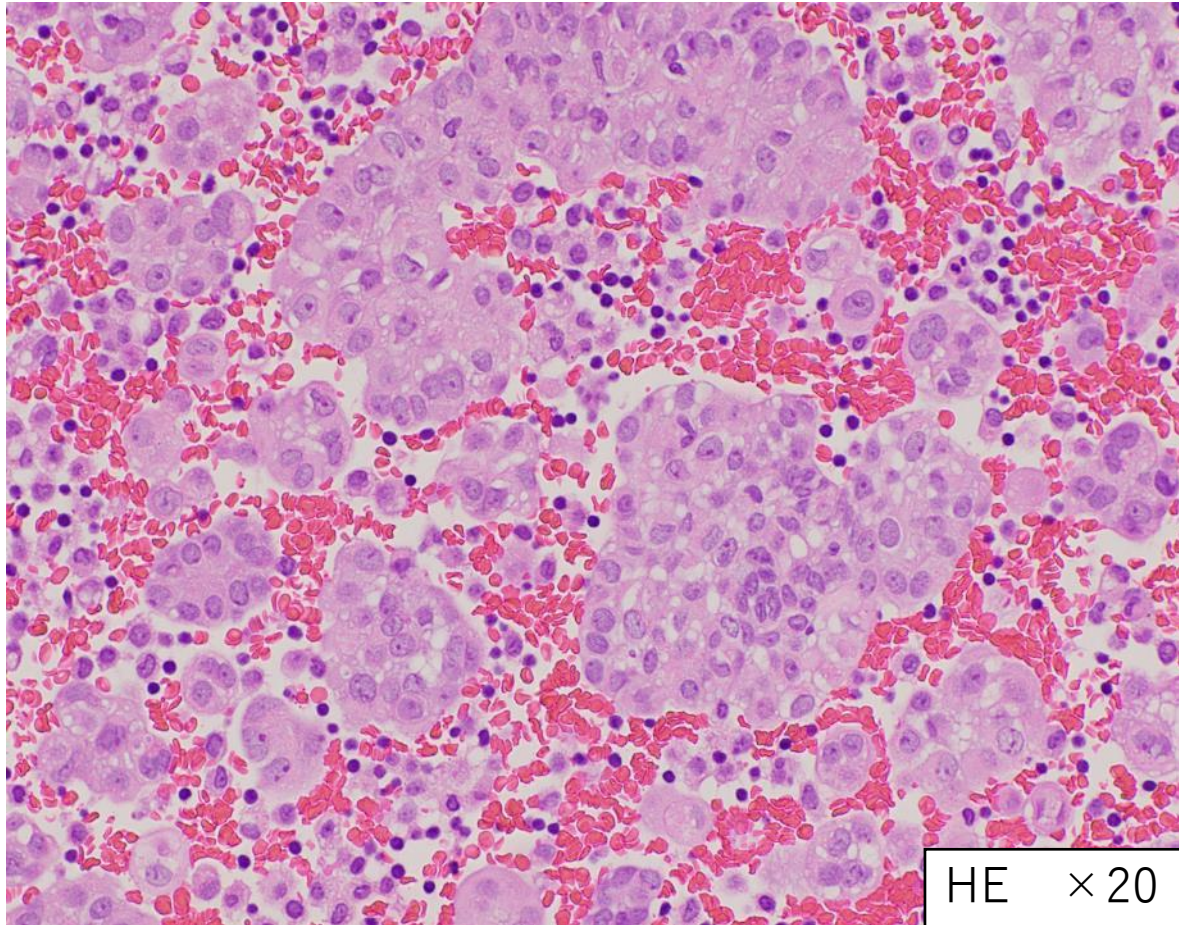
悪性中皮腫や腺癌との鑑別を要したためセルブロックを作製し、免疫染色にて検討を行った。その結果を示す。

3、組織像



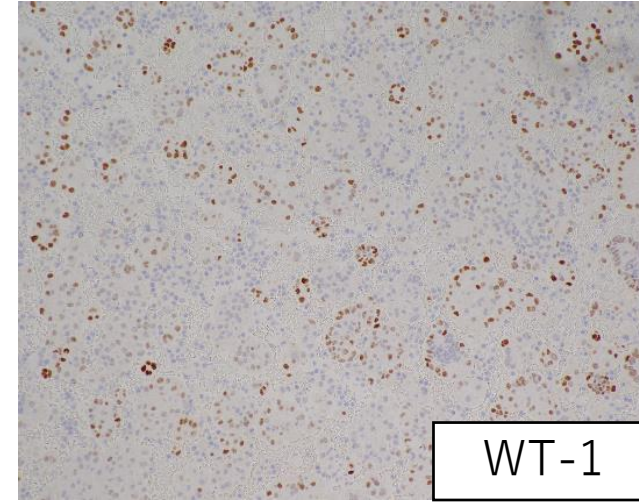
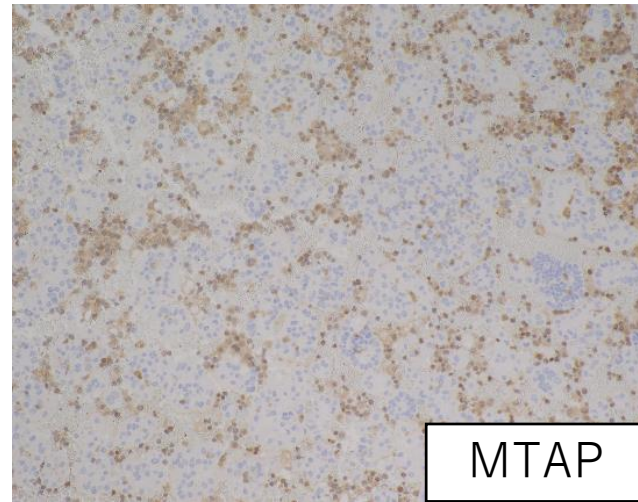
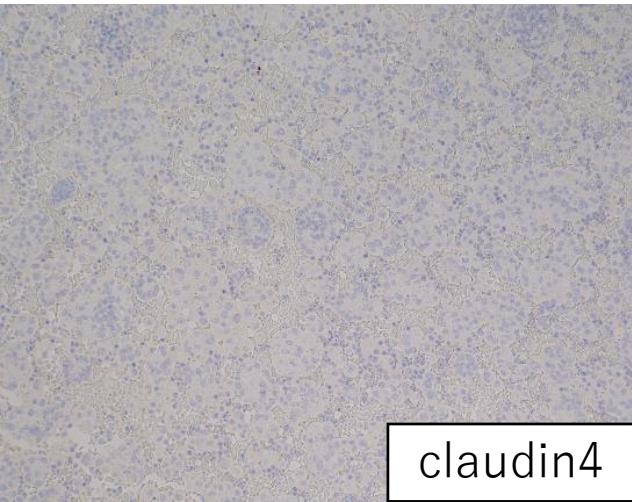
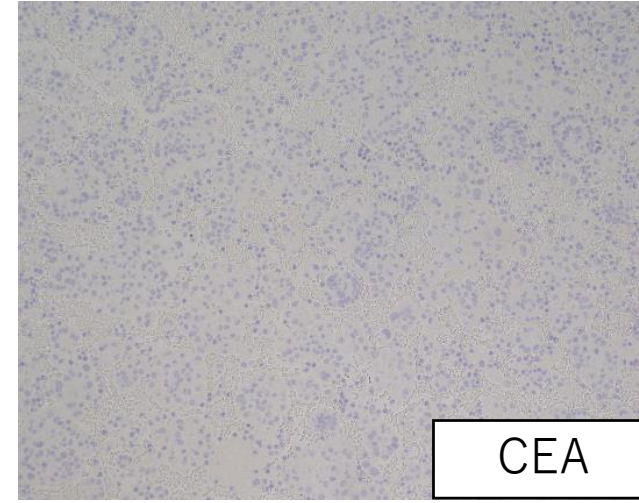
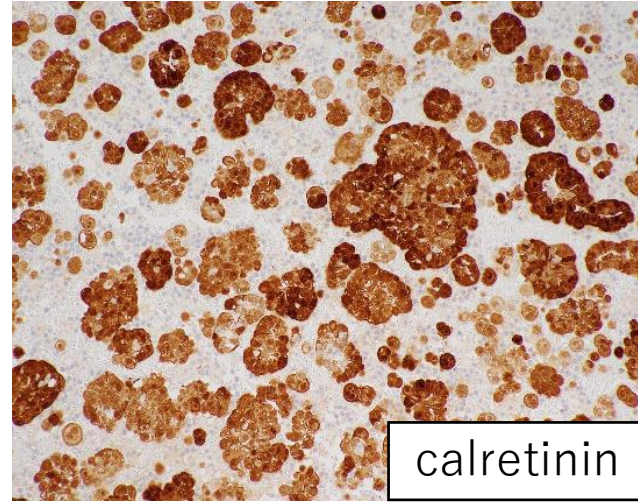
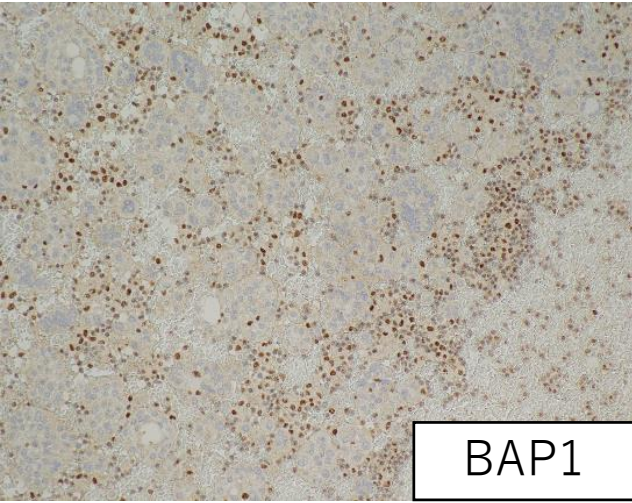
乳頭状や球状の異型細胞集塊が多量に認められた。

3、組織像



核小体明瞭で、好酸性で空砲状を呈する細胞質を有する異型細胞で、一部に核の偏在傾向も示唆された。悪性中皮腫あるいは腺癌との鑑別を要する。

3、組織像（免疫染色）



- BAP1 (-)
- calretinin (+)
- CEA (-)
- claudin4 (-)
- MTAP(-)
- WT-1 (+)

免疫染色にて異型細胞は、中皮マーカー（calretinin、WT-1）陽性、上皮マーカー（CEA、claudin4）陰性。BAP1、MTAPの陰性化を示し、悪性中皮腫に合致した。

4、まとめ・ポイント

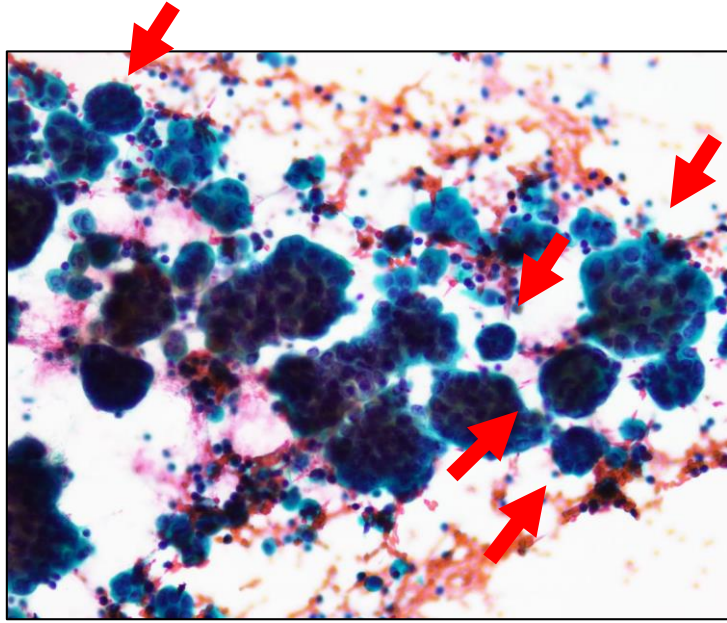
本症例は腺癌との鑑別を要したが、悪性中皮腫としての特徴はもっとなかったか、下の表の赤字を中心に再度標本の見直しを行った。悪性中皮腫と鑑別を要した肺腺癌の症例と比較して検討した。

	悪性中皮腫	反応性中皮	腺癌
出現様式	細胞多数 (集塊状、孤在性)	細胞少数	症例により様々
細胞集塊	球状、乳頭状 孤在性細胞との移行像	平面的な出現	乳頭状集塊と孤在性細胞の混在
細胞質	辺縁は不明瞭 重厚感を有する (特に孤在性細胞)	辺縁はやや不明瞭 やや重厚感を示す	辺縁は明瞭 空砲状や淡明 一部でやや重厚感
結合性	細胞相接像あり hump様細胞突起多い	細胞相接像あり 細胞相互封入像は少数	細胞相互封入像あり hump様細胞突起少ない
核	中心性 類円形で均一感 多核細胞 (均一感あり)	中心性 軽度の大小不同 多核細胞	偏在性 核形不整・大小不同 多核細胞 (均一感なし)
その他	オレンジG好性細胞 II型Collagenous stroma	両者ともに目立たない	両者ともに目立たない

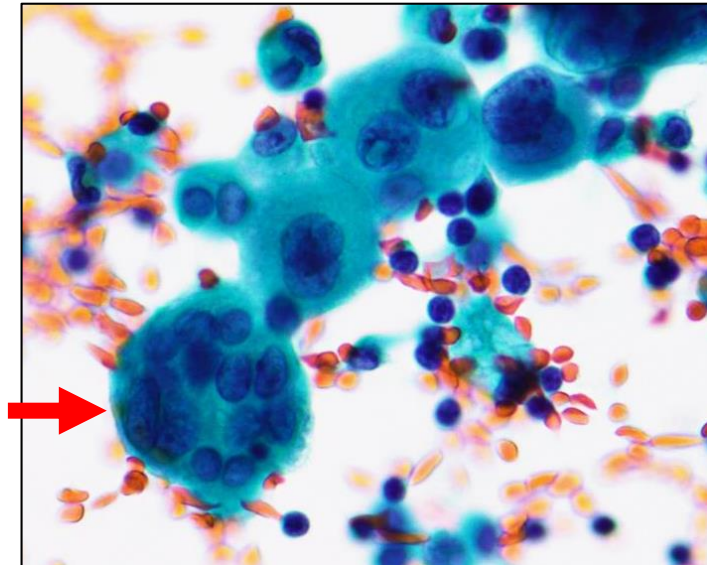
悪性中皮腫の細胞形態の特徴と比較

4、まとめ・ポイント

本症例の悪性中皮腫



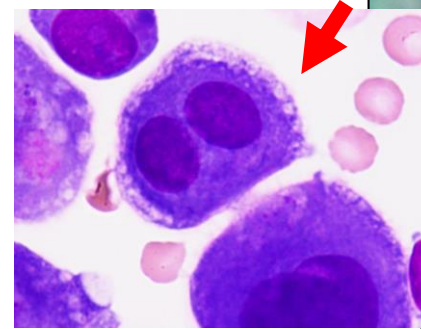
球状集塊が比較的
多く見られた。



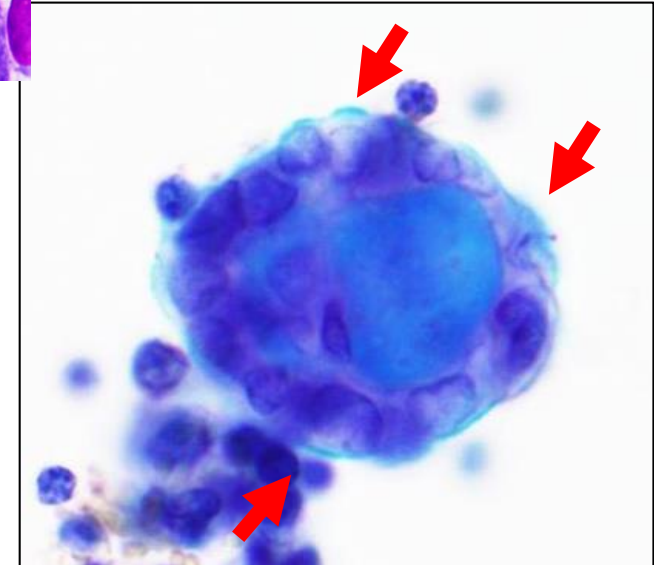
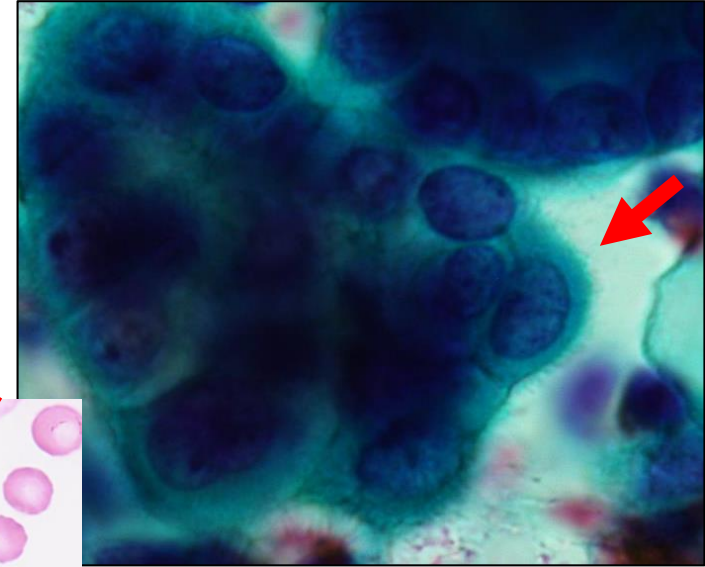
二核の細胞が目立ち、
多核細胞も散見され
た。

核は大小不同はあるが、
中心性、類
円形で均一感がある。

細胞辺縁の不明瞭
化の要因の微絨毛
が確認された。



アルシアン青でも
陽性をしめす細胞
辺縁の微絨毛。



4、まとめ・ポイント

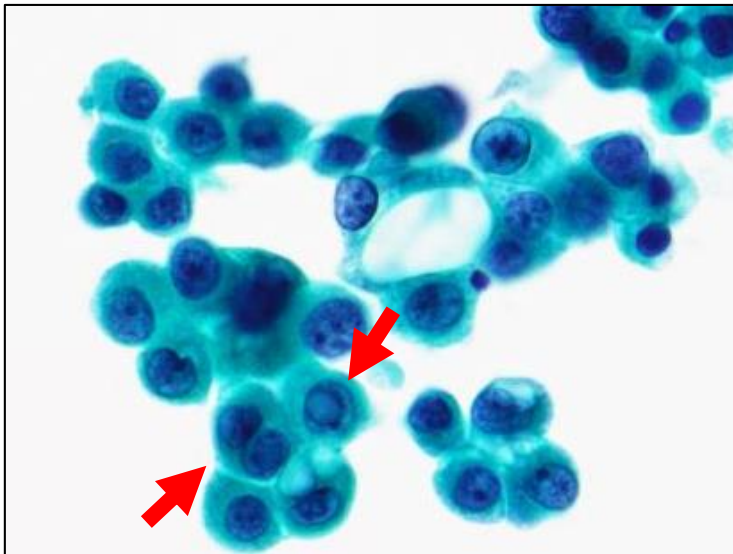
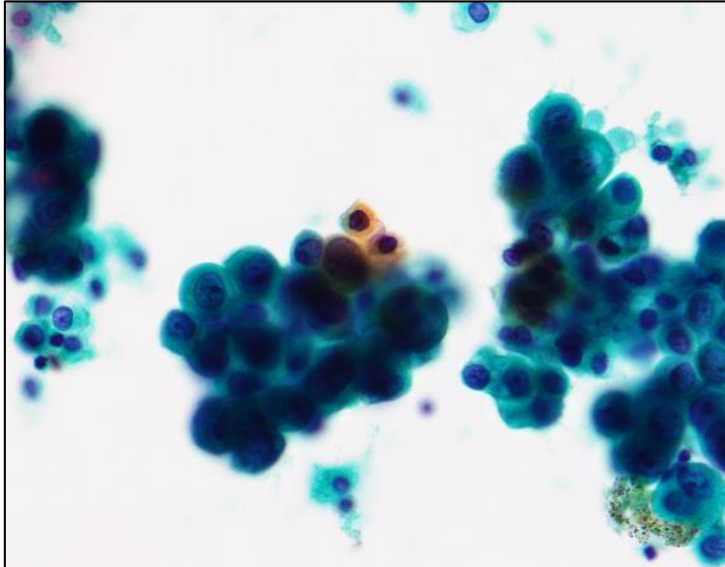
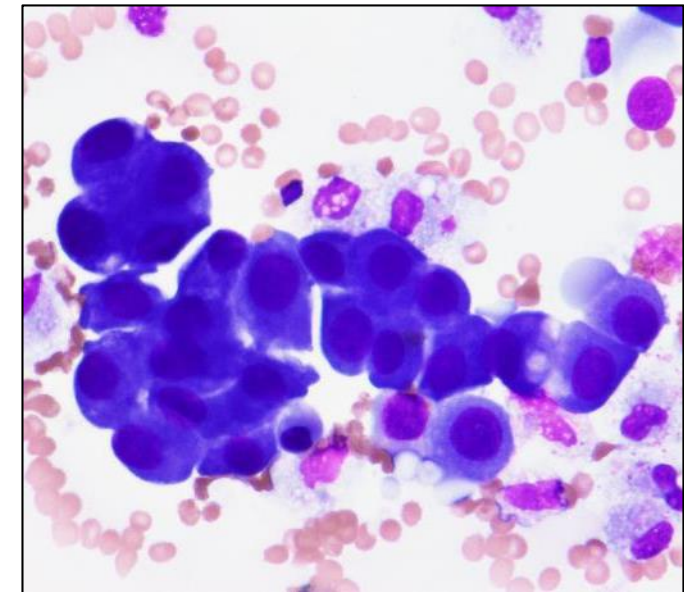
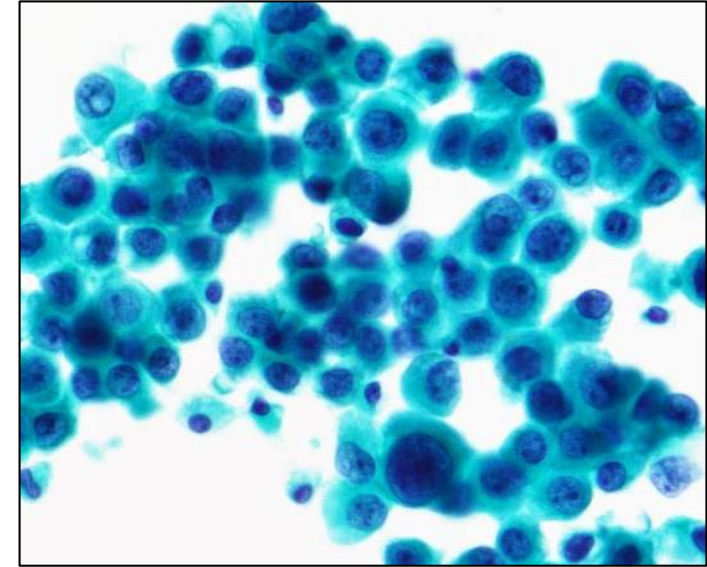
悪性中皮腫と鑑別を 要した肺腺癌例

集塊は乳頭状で、
球状は確認されな
かった。
オレンジG好染性
細胞もあるがごく
少量であった。

同一集塊での核の
大小不同が見られ
た。細胞質は重厚
感があるが、細胞
辺縁、境界が比較
的明瞭であった。

二核の細胞も散見さ
れるが、核は偏在傾
向であり、切れ込み、
核内封入体などの核
の不整が目立つ。

ギムザ染色でも
細胞辺縁は明瞭
であった。



4、まとめ・ポイント

- 本症例は、異型細胞が乳頭状集塊や球状集塊を形成し、相互封入像や核分裂像を認め、悪性中皮腫が疑われる細胞像であったが、やや核の大小不同が多く、密度が高い小型核の細胞集塊が混在していることから腺癌との鑑別を要し、組織型の判定に苦慮した。
- 本症例と肺腺癌症例を比較したところ、球状集塊の出現や均一な類円形核、多核細胞の存在、細胞辺縁の不明瞭化などの形態的特徴から、悪性中皮腫の可能性をより強く疑うことができたのではないかと思われた。
- 拡大すると細胞辺縁の微絨毛が確認できた。油浸やギムザ染色による細胞辺縁の観察は悪性中皮腫の鑑別に有用であると考ええる。
- 体腔液のセルブロック作製は必須であり、今後その重要性はより増していくと思われる。可能な限りセルブロックを作製し、診断の一助にしていきたい。